

# ロッチデールの虹

協同組合誕生の物語

三宅恵子（著） 伊藤展安（絵） 1979年8月1日初版発行 家の光協会

イギリス、マンチェスター（工業都市）の北東、ロッチデールから始まる

ロッチデール、人口 25,000人、織物の町（毛織物業、綿織物業）

工場の機械化、失業者、賃金低下、貧困化

会合

ハワーズ氏、スミシース氏、クーパー氏、ダリー氏

ロバート・オーエン（1771 - 1858、「協同組合運動の父」と言われる）の言葉の導かれ、

「世の中を真に変えることができるのは、実践の中で培われた、限りない人類愛。希望を持って互いに愛し合い、助け合い、信じ合う心。そして、それは誰かがやってくれるのよ待つのではなく、自分自身がまずやること。」

組合員の暮らしの安定、生活の改善をはかることが目的。

そのために、週2ペンスずつ積み立てる。一口1ポンド（当時約20万円に相当する）の出資金を出し合う。

（現金買いの実践、ツケをやめる）

その出資金で、食料品をはじめ、生活に必要な物資を購入する店舗をつくる。

住宅を建てて、生活環境の改善をはかり、子供たちを非行から守る。

失業した人々に職を与えるために、必要な品物の生産をはじめよう。

土地を購入して、失業した人々に耕作をさせよう。

利益が出たら、利用高に応じて公正に分配し、一部は組合員の教育にあてよう。

自分たちの生活は自分たちで守る、家族的な集団を作り上げよう。

一年近くかかって、28ポンドになる。正式に参加したメンバー28名

トードレーン・ガマ通りの3階建ての倉庫、1階部分を借りて、店舗を出す。5品から出発。

「ロッチデール開拓者協同組合」と名付け、1844年10月24日、正式に役所に届ける（協同組合のはじまり）

1844.12/21 開店。最初は、土曜と日曜の夕方、二日だけ開店

出資金に対する配当、買い物をした金額に応じて返してもらう利用高もどしの制度（平等に利益の分配） 「購買高に応じた剰余金の分配」 「協同と自助の精神」

1階は店舗。2階は組合員の集会室と図書館。3階は資料室と物置。

貧乏から抜け出すには、まず無知から抜け出さなければならない。無知から抜け出すためには

知識が必要ということから、図書館を設置。

組合のモットー

1. まぜもののない正しい食品（純正な食品）
2. 正しい目方（正しい量目）
3. かけねなしの値段（適正な価格）
4. 剰余金の分配（剰余金の分配）
5. 教育の重視（教育の重視）
6. 現金買い制度（現金主義）
7. （宗教的・政治的自由） 7. を加えて「ロッヂデール原則」と言われる。

今日、世界中の協同組合が「協同組合原則」として守っているもの

1. 加入・脱退の自由の原則 - 政治的・宗教的立場によって差別されないこと
2. 民主的運営り原則 - 一人一票の議決権を持つこと
3. 出資金に対する利子の制限の原則
4. 剰余金の分配の原則
5. 教育重視の原則
6. 協同組合間の連帯強化の原則

協同組合運動

イギリス ヨーロッパ アメリカ 日本

ロッヂデールの記念館の近くにある「水飲み場」

1855年の春「ロッヂデールの町の人々と、この町を訪れる人々のために」、ロッヂデール開拓者協同組合の名のもとに、町に寄付されたもの。（ランプも）

1924年の国際協同組合同盟世界大会で決議

1. 7月の第一の土曜日を、国際協同組合デーとすること。
2. 虹の旗を、協同組合の旗とすること。 ノアの箱舟のお話から

大洪水のあと、新しい平和な世界を求める人々の姿を、神が祝福して、空に虹をあらわされた。

フランスの経済学者シャルル・ジイドが、その「虹」を協同組合のシンボルにしようと提唱。

決定

戦争反対、平和を求める